

綿産業史を変えた独自技術で 人や環境に安全な製品を提供

企画力
自信有
オンリー
ワン技術
メイド
イン
ジャパン



第7回ものづくり日本大賞授賞式（左から 奥龍将社長 奥竜一常務）

業務内容 循環型環境ストレス フリーの“ものづくり”

ウガンダ産オーガニックコットンを使用した寝具やタオル、ベビー用品を「真綿^{まじめん}」のブランドで製造販売する。こだわりの素材で作る製品は、独自で発見した「綿の自浄作用」を製造工程で利用し、環境負荷低減を実現。これまで一般的だった分業による紡績から製織、精練加工、縫製の各工程を、自社での一貫生産体制へと変革した。製造にかかるエネルギーも自社でまかなう。ソーラーパネルによる自家発電に加え、近隣の里山で発生する間伐材をエネルギー源とするバイオマスエネルギーを活用している。

強み 「Smile工房」で 化学薬剤使わず一貫生産

同社が掲げる“完全オーガニック綿製品”の一貫生産。これを具現化するのが「Smile工房」だ。質感を左右する重要な精練工程では従来、高濃度の水酸化ナトリウムを用いて高温処理を行い、綿繊維から油分や不純物を取り除くのが一般的だった。しかし同社では、ウガンダ産の原料から自社製造するオーガニックシアバター石鹸と水のみで精練。製造工程全体で使用する化学薬剤は、この石鹸製造時に使用する水酸化ナトリウムのみで、使用量は従来の400分の1以下。廃水処理が不要で環境と素材に優しいものづくりを実現しており、工場排水プールではメダカが生息できる環境を実現している。

地域貢献 ウガンダと日本の 地域産業の活性化図る

ウガンダ産オーガニックコットンの普及拡大のため、現在はウガンダ政府と連携した取り組みを推進。こうした信頼関係に基づき、さらなる持続的発展に協力的な日本企業と現地企業とのマッチングを積極的に進めていく考えだ。

これまで何度もウガンダに赴き、現地の農家と協働。品質向上に対する意識改革に力を注いできた。大切な資源である綿花生産の活性化により現地の雇用と生活を守る。一方、日本国内で高品質なウガンダ産コットンの活用を普及することで、厳しい環境にある泉佐野地域の繊維産業“復活”も目指している。

さらに同社は、これまで築き上げた信頼関係を土台に、大阪府泉佐野市とウガンダ・グル市を自治体間友好都市提携へ導いた。2020年の東京五輪パラリンピックでは選手団を受け入れるホストタウンとして、長野県北佐郡立科町と泉佐野市を同国へつなげ、両国間の外交関係の促進にも貢献している。

今後の展望 オンリーワンの技術で 新生児向け製品に注力

独自の取り組みが評価され、平成29年度に経済産業省が主催する「第7回ものづくり日本大賞」を受賞。この受賞を突破口に、今後は活動に賛同してくれるパートナー企業を募り、ウガンダとさらなる連携を強化する。原材料の安定供給を支える日本とウガンダの橋渡しの役割を担っていく考えだ。現在、タオルなどの綿製品に対する消費者の見方は、いわゆる“使い捨て”が主流だという。同社はこの流れとは一線を画して質の高い“安心・安全”な製品の提供を図り、新生児向けの製品開発にも力を入れる方針だ。



ウガンダのコットン農家



「まじめん」おでかけセット

当社の歴史



昭和23年「奥織物」として創業。タオル生地織りを専門に事業をスタートしました。当時活況だった地域のタオル産業は現在、衰退の一途をたどっています。この状況を打ち破るべく平成20年に「スマイリーアース」を設立。付加価値の高いものづくりで、地域全体の活性化に取り組んでいます。

代表取締役社長 奥 龍将さん

<http://smileyearth.co.jp/>

主な事業内容

ウガンダ産オーガニックコットンを使用した綿製品の製造・販売

主な取引先(納入先)

百貨店、大学、エンドユーザーなど

●住所

〒598-0024
泉佐野市
上之郷2384

- TEL 072-450-2018
- FAX 072-450-2019
- 創業 昭和23年4月
- 設立 平成20年2月
- 資本金 500万円
- 従業員 6名

日本
29